

## LPガスCP速報(2021年4月積)

### 1. 4月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **560**  $\text{ドル}$  (前月比-65  $\text{ドル}$ )

ブタン **530**  $\text{ドル}$  (前月比-65  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が大幅に続騰し2019年4月以来高値となるなか、LPガス需給は、サウジの減産継続、霧による米国玉の荷役遅滞、パナマ運河の渋滞による遅延など上昇要因もみられたが、産ガス国の供給余力は潤沢、需要ピークも過ぎ、需給緩和感により軟化した。極東CFR市況は、第1週プロパンは600  $\text{ドル}$ を超えていたが、第2週以降は続落、FOB市況も原油市況の軟化に連れ安となった。

全米プロパンは、輸出が堅調、需要は記録的な寒波の影響など高水準で、全米プロパン在庫は昨年10月以降減少が続き前年の7割を下回る水準、5年平均レンジのボトムに(グラフ②)に張り付いている。米モンベルビュープロパンスポット価格は原油市況の上昇と低水準在庫で上旬は500  $\text{ドル}$ を上回っていたが、在庫が下げ止まり市況は軟化傾向、月平均では前月比15  $\text{ドル}$ 上昇の482  $\text{ドル}/\text{ト}$ どころ(グラフ①)。

フレート市況は、新型コロナ規制の影響、サウジの減産などで、中東での引き合い弱く軟化した。船舶供給過剰感の解消とともに第2週以降続伸、平均では前月比横ばいとなった。

ナフサは原油価格に連動して大幅続騰し中旬には629  $\text{ドル}$ に達した。月間平均は595  $\text{ドル}$ どころで、前月比34  $\text{ドル}$ の上昇。

バンカーオイルも原油市況に追随して上昇した。シンガポールIFO380は月間平均で前月比21  $\text{ドル}$ 高の402  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同18  $\text{ドル}$ 上昇の535  $\text{ドル}$ どころ、両油種の格差は133  $\text{ドル}$ 、前月とほぼ変わらず。

4月CPは前年同月比プロパン330  $\text{ドル}$ 、ブタン290それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン19、ブタン18ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパン29ポイント、ブタン20ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	27.0	33.2	38.1	41.4	35
CP先物指標:P	605	580	575	570	583
CP先物指標:B	585	555	545	535	555

#### ② 原油市況等

原油市況をみると、3月WTIは60.64  $\text{ドル}$ でスタート、11日に66.02  $\text{ドル}$ と2019年4月23日以来の高値を付けた。OPECプラスは4月もサウジが100万b/dの自主減産を継続することで、生産水準を維持、ワクチン接種が世界各国で進み、経済正常化、需要回復による過剰原油在庫の削減が見込まれた。米テキサス州を襲った記録的な寒波から原油生産は1,100万b/dを回復したが、製油所の復旧が遅れ稼働率が低下、製品在庫は減少したものの原油在庫は急増し5億バレルを上回った。インド、欧州など新型コロナ感染が拡大、アストラゼネカのワクチンを巡る混乱や、再びロックダウン措置が執られるなど需要回復への懸念が重しとなり、23日には57.76  $\text{ドル}$ まで急落した。

一方、CFTC発表の大口投機玉の買越残高は23日時点では523千枚、前月末から11千枚増加、買い建玉は683千枚で前月末比横ばい。米長期金利の上昇で一時的に株価が急落、その後は最高値を更新するなど金融市場はリスクになっている。原油市況も中旬以降、急騰、急落を繰り返し過剰流動性相場となっている。

○3月積みアラビアン・ライト(3月1~30日までの想定)は65.4  $\text{ドル}$ (前月比+3.55  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン536.21  $\text{ドル}/\text{ト}$  ブタン528.86  $\text{ドル}/\text{ト}$

AL比 プロパン104.44% ブタン100.22%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

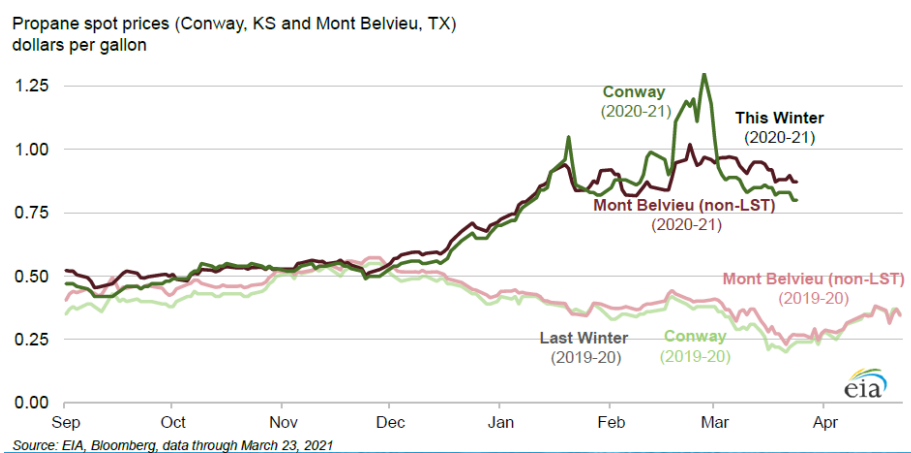
## 2. 2021年4月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	108.74	70,200	67,000	70,100	-600	-1,300	+500
②末日締め	109.63	65,000	61,700	64,700	-400	-1,100	+700

\*TTS平均について、①が2月21日～3月20日、②3月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは3月29日までの価格を基にEINで試算（481ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米MBプロパンスポット価格推移



### ② 全米及びメキシコ湾岸（PADD 3）プロパン在庫推移

